

るが、金澤では庚申の夜だからといふので、唯何となく夜半頃まで寝に就かず、それを庚申待というてゐた。

コウセイ 恒盛 白山本宮の社僧。今白山比咩神社に元弘三年癸酉五月廿一日附恒盛・眞盛二人連署の起請文があつて、『白山正月十一日御神事新田七段、十五年分の所當を、來納にめされ候しにて、此間本證文をあづかりまいらせ候を、今年天下のほうくんに、ひきうしなひ候あいだ、かゝしまいらせず候。若たづねいだし候はゞ、文書を見候て、けゝを申候て、かゝしまいらすべく候。云々』と記されてゐる。『ほうく』は遷々で、騒亂の意なるべく、今年閏二月後醍醐天皇は隱岐を出でさせ給ひ、四月足利尊氏は歸順して、翌月京都を恢復し、同月新田義貞も亦鎌倉を陥れたのであるから、さうした餘波が、夙く僻遠のこの附近にも及んでゐたこと、考へられる。

コウセイ 公誓 本願寺蓮如の曾孫。蓮如・九男兼照・教清・三男公誓と繼ぐ。石川郡小原村薬師寺公誓の門下となり、天正八年四月二十六日二十六歳で寂した。

コウセイ 光誓寺 金澤九人橋下通に在つて、一向宗東派に屬する。初め石川郡大桑村に、次いで金澤材木町に在り、明治廿二年今の地に移つた。

コウセイ 光誓寺 鳳至郡波並に在つて、眞宗東派に屬する。能登名跡志に、『光誓寺といふ一向宗あり。蓮如の寶物あり。毎年三月廿五日にひろめあり。』と記する。

コウセイ 廣誓寺 金澤下中島町に在つて、本願山と號し、曹洞宗に屬する。貞享二

年の由來書に、慶安元年八坂雲龍寺十代白翁を閉山とし、二代眞英の建立に係り、閉基檀那は不破彦三であると記される。當寺の地藏尊は丈四五寸の木像であるが、鎮火の守護として靈驗があるといはれる。

コウセイ 高濤寺 鳳至郡西大野に在つて、眞言宗に屬する。保延元年德應法印の閉基と傳へる。當寺の境外高嶺山の頂上に近く、木造薬師如来座像高七五寸が安置されてゐて、室町時代の作と認められる。能登十二薬師中の高洲薬師といふものはこれである。

コウセン 高泉 明僧で、名は激、吳華道人と號し、隱元の法弟であつた。寛文十二年月坡の既に退院して無住となつた金澤の猷珠寺に來り、居ること年餘。延寶元年隱元の寂に入るや、一旦辭して宇治に歸つたが、元祿二年再び猷珠寺に來た。この時天徳院に前田氏の祖廟・佛殿等改築の事があり、その指法を高泉に命ぜられ、七年落成して三月西歸した。其の金城に在ること前後八年。詩偈銘贊及び書畫の此の地に存するもの多かつた所以である。高泉亦我が邦の茶事に通じてゐたから、その書畫は特に抹茶家に愛重せられる。蓋し明人の金澤に來寓するもの、王伯子と併せて前後二人あるのみである。

コウセン 廣專寺 鳳至郡熊野に在つて、眞宗東派に屬する。

コウセン 光專寺 金澤野町に在つて、眞宗東派に屬し、世に末の光專寺と稱せられる。貞享二年の書上に、文明中僧慶縁石川郡末村に創立、元和中泉野に寺地を受け、後下近江町に轉じ、萬治四年四月今の地を拜領し

たとある。

コウセン 光專寺 金澤荒町に在つて、眞宗東派に屬し、木越山と號し、俗に米出光專寺と稱する。萬治の由來書に、文龜二年登乘といふ者羽咋郡小川村に建立、後河北郡木越村・羽咋郡米出村に移り、慶安三年祐尊の時今の荒町に轉じたとあり、初め祐尊の隱居としたものである。

コウセン 光專寺 河北郡高松に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡法光寺村に天台宗法光寺があつたが、蓮如に歸依して西照坊といひ、二代淨專の時羽咋郡小川村に移り、三代登乘の時文龜二年光專寺と稱し、文祿中河北郡木越村に、慶長中羽咋郡米出村に、寶曆十二年河北郡高松村に移つた。故に法光寺一村雖く光專寺の門徒である。寺藏に畠山義綱の判書及び家老三宅・温井連署の書がある。

コウセン 光關寺 河北郡切山に在つて、眞宗東派に屬する。明治十三年十二月草創の許可を得た。

コウセン 光善寺 金澤田丸町に在つて、一向宗東派に屬する。

コウセン 光善寺 鹿島郡飯川に在つて、眞言宗に屬する。天正五年宥照の再興であるといふ。

コウセン 興善寺 能美郡小松に在つて、眞宗西派に屬する。初め同郡大島村にいたるともある。

の興禪寺であるまいかといはれる。

コウセン 興禪寺 鳳至郡門前なる曹洞宗總持寺の關外にある。もと塔頭普藏院の所屬であつた。寛正三年通峰の開基。

コウセン アゲチマチ 光專寺上地町 金澤の舊町名。野町光專寺の舊寺地で、十二册御定書に載せた元祿九年の家數調書に、下近江町の次に光專寺上地町を載せてある。國事昌披問答には近江町三番町の次に光專寺上地町とある。

コウセン ヤマ 光專寺山 羽咋郡柳田にある。能登名跡志に、『柳田村に光專寺山とて古寺の跡あり。觀音堂あり。本尊蓮慶の作なり。當國十七番順禮の札所なり。』と記する。

コウソウ 興宗寺 江沼郡月津にあつて、眞宗東派に屬する。初め越前長畝郡但馬にあつたが、次に江沼郡八田郷牛鼻にあつたといふので、牛鼻山但馬興宗寺ともいふ。明治十一年車駕北陸巡幸の際、當寺を御小休所に當て給うた。

コウソウ 光宗寺 羽咋郡福水に在つて、眞宗西派に屬する。もと同郡向瀬に在つたが、延享三年今の地に移轉したといふ。